

街道とまちづくり

第10回

因幡街道

いつまでも暮らしたい、だれもが暮らしたくなる
自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市

鳥取市長 深澤義彦
とっとり ふかざわよしひこ



鳥取池田藩32万石の 城下町 鳥取

鳥取県東部は、古くは「因幡の国」と呼ばれ、江戸時代には鳥取藩32万石を治めた池田氏の城下町として栄えた。現在でも、鳥取市を中心に、政治、経済、文化等あらゆる面で一体的な圏域となっている。鳥取市中心市街地の中心に位置



因幡街道の起点になる鳥取市のランドマーク「鳥取城跡」

する史跡鳥取城跡には、江戸時代に築かれた鳥取城だけでなく、戦国時代までに築かれた数多くの中世城郭の遺構が残されている。歴史上有名な羽柴秀吉と吉川経家の鳥取城攻防戦に見られるように、中世の鳥取城は堅固な要害として知られ、江戸時代には池田長吉・池田光政、そして鳥取池田家代々の藩主によって近世城郭が整備された。鳥取市中心市街地はこの鳥取城を中心に形作られた城下町を基礎としており、現在でもその町割などが色濃く残されている。

因幡街道と鳥取市の発展

鳥取県東部を縦断する「因幡街道」は、山陰の因幡鳥取と美作を経て姫路を結ぶ山陰地方と山陽地方をつなぐ道である。

街道の歴史は古く、奈良時代には風土記に記されており、中世には後醍醐天皇がこの道を京へと駆け上り建武の新政を打ち立てた。江戸時代には、鳥取藩の壮大な参勤行列が通ること宿場町に欠かせない繁栄をもたらした。

街道史上重要な歴史的背景を持ち、古来圏域の暮らし・経済の大動脈であった因幡街道は、独自の文化・民俗的要素を彷彿とさせる歴史的な景観をはじめ、伝統食、酒蔵、温泉地、民芸など、人々の生活や生業と密着した貴重な地域資源が数多く残る地域である。

また、鳥取市には大国主命が白兎海岸で白うさぎを助けた古代山陰道（現在の国道9号）や、鳥取城を起点として鹿野街道、智頭街道、若桜街道という3つの街道が現在

もなお中心市街地商店街の名称となっているなど「街道のまち」として発展してきた都市といえる。

高速道路ネットワークを生かしたまちづくり

鳥取県東部は長い間、高速道路ネットワークから取り残されてきたが、近年、大きく整備が進展してきた。平成25年3月23日には待望の鳥取自動車道が全線開通し、ま



因幡地方の街道筋の一つ 古い街並みが美しい「鹿野往来」

た山陰自動車道を構成する鳥取西道路、山陰近畿自動車道の整備も着実に進展しており、鳥取市は高速道路新時代を迎えている。特に鳥取自動車道は古来の因幡街道と並行するように走っており、まさに「現代の因幡街道」として沿線振興に大きな期待が寄せられている。

このような鳥取自動車道をはじめとした無料の高速道路の整備進展が、本市のまちづくりを大きく変えており、現在、高速道路によってアクセスしやすくなった強みを積極的に国内外に発信し、来訪者の増加と交流人口の拡大に取り組んでいる。

平成26年7月4日から「すごい鳥取市」をキャッチフレーズとした情報発信戦略を展開、平成26年12月12日には、大阪中之島に鳥取市関西情報発信拠点「とりのまんま」



神話因幡の白うさぎの舞台「白兎海岸」

をオープン。関西地方へのシティセールスを強力に推進している。

また、本市では、若者や団塊の世代を中心に移住定住（ＵＪＩターンの）促進に積極的に取り組んでおり、平成27年1月末現在、756世帯1533人が本市に移住定住した。関西圏から沿線市町への移住定住が多く「日本住みたい田舎ベストランキング」総合ランキングでも本市が第2位に選ばれた。

さらに、減少傾向だった鳥取県東部の観光入込客数は、鳥取自動車道の開通に伴い、鳥取砂丘などの鳥取市の観光施設を中心として増加。（東部圏域で対平成19年＋30%、78万人増加）中部地方や近畿地方からの観光客が増加するなど、観光集客エリアが拡大・広域化している。企業誘致も、無料の高速道路である鳥取自動車道が関西方面とのアクセスに便利であること、企業のニーズに応じたきめ細やかな優遇制度を設けていること等をセールストークに、平成14年以降、141社、3688名の雇用創出を実現した。

中核市としてさらなる飛躍を

古来、街道によって発展してきた

た鳥取市は、今、高速道路ネットワークという新たな街道を得た。

因幡街道や他の街道、さらに鳥取市全域に広がる多様な地域資源を、感動、癒やし、おもてなしの心とともに多くの皆さまに楽しんでいただき、世代間・地域間・都市間などの多様な交流が生まれる滞在交流型のまちづくりを進めていく。

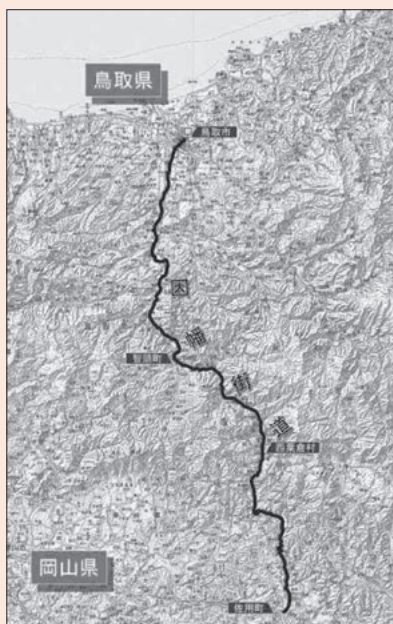
鳥取市は、平成30年4月1日の中核市移行、地方中枢拠点都市と

一口メモ

因幡街道

平安時代には都からの国司赴任の道であつた因幡街道は、江戸時代脇街道の一つとして整備された。播磨国姫路（兵庫県姫路市）を始点として、因幡国鳥取（鳥取県鳥取市）に至っていた。平成8年、智頭往来―志戸坂峠越（鳥取県智頭町―岡山県西粟倉村）が「歴史の道百選」に選定されているなど、沿線には数多くの

史跡や旧宿場町の町並みが残されている。また、近世鳥取城下に引き込まれた街道（若桜街道・智頭街道・鹿野街道）が今も商店街としてその名を伝えており、旧街道を通じた鳥取市の中心市街地と周辺との交流が取り組まれている。



企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」

なることを目指している。

山陰の拠点都市として、中国圏・関西圏・中京圏のほか日本全国の都市、また対岸諸国などの経済・文化等の幅広い交流をまねぐりに生かし、持続的に飛躍を遂げていく。

「いつまでも暮らしたい、だれもが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」を目指して。